

# 人工種苗の放流効果調査(石見海域)

(栽培漁業事業化総合推進事業)

沖野 晃・道根 淳

## 1. 研究目的

石見海域における人工種苗放流マダイとヒラメの放流効果の検証を目的として行った。なお、この調査は石見海域だけでなく、全県で調査が実施され、鹿島浅海分場が出雲海域で、栽培漁業センターが隠岐海域で調査を行う。また、各海域で県水産振興協会と共同で調査が行われている。

## 2. 研究方法

漁獲統計調査の対象漁協は益田市漁協から湖陵町漁協までの石見海域の11漁協で、調査期間は平成15年1月～12月までである。市場調査は当海域のマダイ、ヒラメの漁獲量の大半を占める小型底びき網漁業を対象に和江漁協で実施した。なお、浜田市漁協所属の沖合底びき網漁業は漁場が石見海域とは異なるため、ここでは調査の対象外とした。放流魚の確認は、マダイは鼻孔異常(鼻孔隔皮欠損)を、ヒラメは無眼側の色素異常を肉眼観察により行った。

## 3. 研究結果

### (1) マダイ

調査は基本的には全数調査であるが、漁獲量が多く時間の関係上全数調査が出来ない場合は、マダイの漁獲量の多い船を選定し、和江港に当日水揚げされたマダイ全体の7～8割の測定を行った。本年度は1,817尾のマダイの測定を行った。本県のマダイの制限体長は全長15cm(尾叉長約13cm)以上と定められているが、調査したマダイの尾叉長は17～70cmの範囲にあり、25～40cmの個体が全体の約77%を占めた。そのうち、鼻孔異常魚は尾叉長20～47cmの個体で、計16尾が確認された。放流時の鼻孔異常割合から放流魚の混獲率は1.2%と推定された。当海域のマダイの総漁獲量(沖底をのぞく)は約145.2トン、水揚金額は約1億2,800万円である。推定した混獲率から放流マダイの漁獲量は約3.6トン、水揚げ金額は約315万円と推測された。放流魚は2～5歳魚のものが多く放流魚全体の93.7%を占めた。

### (2) ヒラメ

調査は原則として当日水揚げされたヒラメの全数調査を行い、本年度は1,073尾のヒラメを測定した。本県のヒラメの制限体長は全長30cmとなっているが、市場調査で測定されたヒラメの全長は31～93cmの範囲にあった。特に、35～50cmの個体が全体の約77%を占めた。無眼側色素異常魚(黒化魚)の全長範囲は35～70cmで計25尾が確認され、混獲率は2.3%と推定された。当海域のヒラメの総漁獲量は73.6トン、水揚金額は約1億2,279万円である。推定した混獲率から放流ヒラメは約2.1トン、水揚げ金額は約346万円と推測された。

## 4. 研究成果

調査結果は「平成15年度栽培漁業事業化総合推進事業マダイ、ヒラメ放流効果調査報告書」としてまとめられ、平成15年度市場調査担当者会議および島根県水産振興協会を通じて関係漁業者に報告される。